

生物多様性の主流化推進に向けたシンポジウム 開催報告

日時：令和5年3月5日（日）13：30～16：30 参加者：122名（うちオンライン51名）

令和5年3月5日に大阪公立大学 I-site なんばにて、「生物多様性の主流化推進に向けたシンポジウム」を対面・オンライン形式で開催し、基調講演、取組事例紹介、ディスカッションを行った。

挨拶（大阪市環境局環境施策部 岡本充史部長）

「生物多様性の恵みを感じるまち」の実現に向け多様な主体とのより一層の連携・協働に取り組む。基調講演「生物多様性とその主流化をめぐる国内外の動向」（大阪府立大学 石井実名誉教授）

次期生物多様性国家戦略を取りまとめるキーワードとしてネイチャーポジティブ、30 by 30、OECMなどの考えの紹介があった。

取組事例紹介①「生物多様性の主流化推進に向けた大阪市の取組」（大阪市環境局環境施策部環境施策課 三原真課長）

取組事例紹介②「大阪市のネットワーク会議のこれまでについて」（大阪公立大学大学院 平井規史教授）

取組事例紹介③「淀川の生物多様性とイタセンバラ」（大阪工業大学 綾史郎名誉教授）



熱気あふれる！シンポジウム会場

取組事例紹介④「生物多様性保全のための情報共有～大阪市域生き物調査などの成果活用」（大阪市エコボランティア 榎元慶子氏）

取組事例紹介⑤「大阪城公園における生物多様性保全の取組について」（大阪城パークマネジメント共同企業体 菅野浩一氏、大阪城公園生きものいっぱいプロジェクト 垣井清澄氏）

取組事例紹介⑥「生物多様性に関する国際的動向とバイオームの取組」（(株)バイオーム 藤木庄五郎代表取締役）

取組事例紹介⑦「夢洲からの報告－大阪湾岸における生物多様性保全をめざして－」（大阪自然環境保全協会 磯上慶子理事）

ディスカッション「未来の生物多様性はどうなっていくのか？主流化に向け、何ができるか？」をテーマに、佐久間大輔氏（大阪市立自然史博物館）をファシリテーターとして、平井教授・三原課長・榎元氏・垣井氏・磯上理事が意見交換をした。



第3部のディスカッション

参加団体：大阪公立大学大学院、大阪市環境局、大阪自然環境保全協会、大阪工業大学、大阪市エコボランティア、大阪城パークマネジメント共同事業体、(株)バイオーム、大阪市立自然史博物館、NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会、環境事業協会、天王寺動物園、近畿地方環境事務所、淀川イタセンバラ研究会、紫金山みどりの会、琵琶湖淀川流域勉強会、生物多様性センター、大阪府環境農林水産総合研究所、鉢ヶ峯の自然を守る会、きしわだ自然資料館、グリーンシティ福岡、淀川河川レンジャー、水辺に親しむ会、日本野鳥の会大阪支部、大阪 ECO 動物海洋専門学校、毎日放送